

## 令和5年度史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会・同調査指導部会

日時 令和5年6月29日(木)午後1時半～

会場 新潟市新津美術館レクチャールーム

### 出席委員

石川委員・石黒委員・川上委員・小林委員・齋藤委員・朱雁委員・  
高橋委員・橋本委員・渡邊(貴)委員・渡邊(敏)委員

### 欠席委員

菊地委員

### 指導

小野本 敦氏(新潟県観光文化スポーツ部文化課主任調査員)

当日次第 (○:委員 ●:事務局)

#### 1 開会挨拶

#### 2 委員及び事務局紹介

#### 3 委員長選出について

小林達雄委員選出

#### 4 職務代行(副委員長)の指名について

石川日出志委員選出

#### 5 報告・議題

##### (1) 保存関係

A 令和3・4年度古津八幡山遺跡確認調査結果の報告

B 今後の予定

- 平成29年度から令和4年度の調査成果について報告。令和6年度に報告書を刊行する予定。追加指定についても今後委員会で検討していくことになる。
- 調査成果・今後の課題について確認・指導。
- 重要な調査成果があがったといえる。マスコミにももっと取り上げてもらえるよう、わくわく感が伝わるような、ポイントを的確に絞った広報の仕方をして頂き、広く市民へ発信して頂きたい。

○古津八幡山遺跡の重要性を外へ、特に日本列島全体に対して発信すべきであり、そういう観点で報告書を作成して頂きたい。資料的には日本全体に重要な問題を投げかけるので、現地へ行って情報収集、情報交換するというのも必要かと思う。

○考古学は発掘しないとわからないという運命にあるが、今回の調査区だけではなく、でかい古墳の北側、それから北西側に延びる尾根もかなり広い面積がある。そちらはどうなっているのだろうか、ということもある。長い目で見たら将来の課題というものも見えてきた調査であったといえる。

○今回調査した場所は金津小学校に近く、調査で見つかったお墓の後継のお墓はだんだん学校の近くまで伸びてきている。子どもたちがすぐリアルな意識を持って自分達の生活の中でそういった歴史が関わっているというのを感じることが出来ると思う。歴史的な財産であるということを感じさせて頂いた。今後、子どもたちがもっと地域の歴史に興味を持てれば良いと思う。

## **(2) 整備関係**

### **A 復元竪穴住居の災害復旧工事について**

### **B 今後の整備予定**

●令和4年度に実施した復元竪穴建物4棟（令和3年1月の大雪・強風により毀損）の災害復旧工事について説明。

●史跡公園の整備が終わってから15年が経過し、経年劣化を含めて毀損箇所が散見される状況にあることから、今後も計画的に修繕を行っていく必要がある。

## **(3) 活用関係**

### **A 令和4年度の活用関係報告**

### **B 令和5年度の活用予定**

●弥生の丘展示館の令和4年度の入館者数は27,872人。新型コロナウイルス禍の令和2・3・4年度といずれも20,000人台にとどまっている。

●企画展では、古津八幡山遺跡35周年・弥生の丘展示館開館10周年、隣の新津美術館開館20周年ということで、新津美術館との共催で「古津八幡山遺跡の過去・現在・未来」という企画展を開催した。また、新津美術館では「美術と考古で見る、ここらへんの生活」というタイトルで、美術品と考古資料という異なるジャンルの資料を展示するという企画展を行った。記念講演会は古津八幡山遺跡が発見される最初の調査に携われた坂井秀弥氏からご講演いただいた。

●「花と遺跡のふるさと公園」にはいろいろな施設が集まっているので、今後

も各施設が企画展やイベントなどで連携していくことで、相乗効果を高めていきたい。

●令和5年度の企画展・イベントの予定を報告。

○昨年度は美術と考古との融合を行われたのは良かったと思う。植物園との絡みでいうと、今丁度NHKの朝ドラで非常に関心が高まっている部分もあり、スウェーデンのリンネの植物分類学から始まって、ダーウィンの進化論とモンテリウスの型式学の方法、考古学的な問題、などを噛み砕いて説明するようなことも出来るのではないか。植物考古学というか、そういうこともやられてきている訳で、そういう研究成果と植物園のものを具体的に見せるという企画もできると良いと思う。

#### **(4) 運営関係**

**A 令和5年度の運営体制について**

**B 令和5年度の臨時休館について**

●令和5年度の運営体制・臨時休館について報告。

## **6 閉会挨拶**

**※閉会后、災害復旧工事を行った復元竪穴建物の見学**